

新年度のご挨拶

目黒ユネスコ協会
会長 齊藤眞澄



総会に足をお運びくださった区の皆様、会員の皆様、有難うございました。

6月吉日、青木英二区長、高橋和人教育長に表敬訪問をして参りました。いつも温かいご支援を賜り感謝申し上げます。今年度もどうぞご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。(写真)

「対話と相互理解による平和な世界の実現を！」都ユ連では、声明文を発売しました。私たちも目黒の地で、教育科学文化コミュニケーションを通して、平和な社会の実現を目指すユネスコ活動に邁進し、世界各地での紛争の一日も早い解決を願っております。

祝 ユネスコ 世界文化遺産登録へ 飛鳥・藤原の宮都



日本の古代国家誕生の歩みを示す宮殿跡や寺院跡、墳墓で構成される奈良県の遺跡群「飛鳥・藤原の宮都」が、近くユネスコの世界文化遺産に登録される見通しとなった。2024年登録の「佐渡島の金山」に続き、国内の世界文化遺産22件目となる。国際的に高い評価を得たことはとても喜ばしいことである。

飛鳥周辺の山々や水田景観、四季折々にみせる美しい集落の景色は、この地が「日本人の心のふるさと」と呼ばれる由縁である。しかし、それだけではない。水田や集落の下には1400年前の遺跡が数多く眠っている。それらは、日本が国家として確立した「日本国誕生」を示す記憶である。飛鳥時代とは、推古天皇が豊浦宮に即位した6世紀末から、平城京遷都までの約120年間を指す。中国・朝鮮半島からの仏教伝来にとともに、古墳時代から脱皮し、新しい文化を発展させた時代であり、政

治、経済、社会、文化ともに大変革が試みられた。天皇を中心とした律令国家へ飛躍するという意味において、日本国家成立の時代といえることができる。

構成資産には、壁画で有名な高松塚古墳、キトラ古墳等の多数の古墳も含まれる。世界遺産とは、地球の生成と人類の歴史によって生み出され、過去から現在へと引き継がれ、そして未来の世代に引き継いでいくべきかけがえのない宝物。それらを人類全体のための遺産として損傷、破壊等の脅威から保護し、保存する目的で1972年にユネスコで世界遺産条約を採択。日本も1992年にこの条約を採択。世界遺産は文化遺産、自然遺産、複合遺産の3種類で構成。2024年8月時点で、全世界で登録されている世界遺産は：文化遺産952件、自然遺産231件、複合遺産40件。

広報 和田 広美

未来に向けて、あらためて考える地球環境 「令和8年度環境講演会」

主催：エコライフめぐろ推進協会 共催：目黒区

2026年6月6日(土)13:30～ 会場：中目黒 GT プラザホール

講演の第一部は「Dear Earth～美しい地球を未来へ」というテーマで、講師の自然写真家・高砂淳二氏による映像紹介であった。氏は、海洋生物の写真家としてキャリアを始められたが、「自然の変化を見るうちに心が痛むようになった」と話され、ホッキョクグマから海鳥やサンゴまで多種の動物、美しい自然からゴミに苦しんだ死がいまで多様な写真を紹介してくださった。そして、スクリーンの映像と共に、動物や自然の面している危機や人類が破壊している自然環境の実態を実体験に基づいて説明された。

気候変動や地球温暖化、海洋ごみやプラスチックの問題は、すでに私たちが見聞きし懸念しているところであるが、氏の自然の循環・生態系への

深い洞察をお聴きし、改めて現在の環境危機をまさに眼前のものとして再認識した。そして「地球は私たちが食べさせている、エコシステムは完璧だがもろい、人類は自然と兄弟姉妹のように意識して共存しなければ」と語られた言葉が心に残った。

続いての第二部は、「家庭でできる温暖化対策と省エネ」と題してクールネット東京からレクチャーがあり、資料とスクリーンで学習し、講演会は終了した。

ユネスコは、世界が抱える課題のひとつとして環境や気候変動をとらえて活動している。今回の講演の主旨はその活動との関連が大きく、目黒ユネスコとしても檄をいただくものであった。

広報 鈴木 やよい



※エコライフめぐろ推進協会は、目黒ユネスコ協会の団体会員として交流があります。

委員長紹介



岩佐 富雄
支援委員長

生まれた時から、ずっと区内に住んでいますが、目黒区のことほとんど知らないまま過ごしてきたような気がします。目黒ユネスコ協会の活動を通じて、中目黒や祐天寺、自由が丘周辺などに足を運ぶようになってきましたが、まだまだ知らないところも多いです。目黒ユネスコ協会入会のきっかけは、元上司であった前事務局長からのお誘いでした。板橋区の小学校で講師として高学年の理科を担当しているので、サイエンス教室や文化講座の準備や後片付けのお手伝いからスタートし、いつの間にか支援委員会やサイエンス教室の役割もいただきました。『書きそんじハガキ回収キャンペーン』では、郵便料金の値上げが続く中でも毎回、区民・会員の皆様から温かいご支援をいただき感謝しております。今後は担当している役割を確実に果たすとともに、一緒に活動して下さる会員の仲間を増やしたいと願っています。



西田不二夫
日本語委員長

共催事業として毎週火曜と木曜それに土曜日の授業を朝 10 時から 11 時 45 分まで緑が丘文化会館で行っています。各クラス約 8 人の学習者に対しての日本語初級クラス担当です。国籍多様で年間延べ 240 人の外国人を教えています。日本語学習支援はボランティア会員の約 20 名です。クラスを通してユネスコの理念である文化交流、平和に役に立つよう努力しています。

TEATIME 原爆の像/広島 千羽鶴の贈呈活動 ※「パーシモンほたる祭りで千羽鶴を」

日時：7月12日(日)11～16時 会場：パーシモン大ホールホワイエカウンター

趣旨：★地域の催しに参加。目黒区・目黒ユネスコ協会への平和活動の理解普及のためにパーシモンほたる祭りに参加しています。★内容：来場者に広島に贈る千羽鶴を折っていただくコーナーを作り、鶴を折っていただいたお礼に「くるりんぱ」カードを差し上げております。

スタッフ：会員と、青少年フェスタに参加した区の平和特派員(小、中学生)

青少年 望月 昇

五本木小学校の取組【ユネスコスクール】



未来につなぐ五本木の森

「五本木の森」はかつての武蔵野の雑木林の名残であり、目黒区における貴重な緑となっています。



五本木小学校は、平成22年度に「ユネスコスクール」に加盟しました。ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章で定める平和や国際的な連携を実践し、ESD(持続可能な社会の創り手を育む教育)を推進する学校です。現在、日本のユネスコスクール加盟校は、1,065校(2026年3月現在)です。

五本木小学校では、ユネスコ憲章にある「心の中に平和の砦を築く」ことを大切に、ユネスコスクールとしての取組を実施しています。その一つとして、自分たちができることは何かを学校全体で取り組んでいます。ユネスコスクール委員会やエコ・グリーン委員会という児童の活動や、地球環境問題に対して節電、節水、MGR100など自分たちでできることを考えた活動、校庭の「五本木の森」を活用した学習などを行ったりしています。

ホームページなどで各学年の活動などを紹介してまいりますので、ぜひご覧ください。



各学年の学習



五本木小学校では、「いのちのバトンをつなぐ ユネスコスクールの子」を目標としています。

生活科・総合的な学習の時間を中心に、教科を横断しながら、全教育活動において探究的な学びに取り組んでいます。

令和7年度は、地球温暖化の課題である「気候変動」を取り上げ、地球の温度を1.5℃下げることが意識した取組を行いました。

- 1年生 育てた朝顔を生かした学習
- 2年生 野菜作りや堆肥作り
- 3年生 五本木の森を活用して自然で遊ぶ・楽しむ
- 4年生 自分たちができることは何か MGR100
- 5年生 食べることで命をいただくこととのつながりを知る
- 6年生 再生可能エネルギーとして
どんな発電ができるかを考える

自分の地域や社会の身近な問題や喫緊の課題などを自分ごととすることや、友達や地域・保護者、様々な人と協働し、対話を通して新たな考えや価値を創り出す探究的な学びの楽しさが、持続可能な未来の担い手を育むと考えています。

活動による成果は、「学校公開」や「学習発表会」などで公開したり、学校だよりのコラムで発信したりしています。

教員研修～ESD 研修会～

年に2回、教員研修として「ESDに関する研修」を行っています。第1回として、新しく異動してきた職員が本校の取組み内容を理解するために、「ESDとは何か」、「昨年度の各学年でのESDに関わる学習内容について」をテーマに研修を行いました。

当日はコミュニティ・スクール地域運営協議会委員の方々にもご参加いただき、これからの教育活動について共有し合う有意義な時間となりました。



給食指導

五本木小学校では、食に関する指導(給食)では、「ごみゼロの日(5月30日)」や「世界食糧デー(10月16日)」などを中心に、食品ロスを減らす取組を行っています。

ある日の献立では、野菜の皮や茎などを食べやすく工夫したキーマカレーを提供しました。また、「ノモーレ(飲もうLe)週間」として、牛乳の飲み残しを減らす



ための歌をみんなで歌い、牛乳の魅力を伝えています。子供たちが楽しみながら食の大切さと食品ロスを減らすための取組について考えていけるよう、これからも工夫をしていきます。

★① 日本語教室「初めて習う日本語」

2026年9月8日(火)～12月10日(木)

毎週火・木 (9月22日・11月3日を除く)全26回

午前10時～12時 会場:中央町社会教育館

初めて日本語を習う16歳以上の日本語を母語としない人

定員:20名 2500円(テキスト代)

申込:8月1日～8月25日(定員に達し次第締め切り)

使用テキスト:「みんなの日本語初級Ⅰ」

▲② 「目黒ユネスコ日本語教室2026年秋期」

2026年9月8日(火)～12月12日(土)

朝コース 毎週火・木 (9月22日・11月3日除く)

午前10時～11時45分 全26回

土曜コース 毎週土10時～11時45分 全14回

会場:緑が丘文化会館、対象:日本語を習いたい16歳以上の

日本語を母語としない人・定員:各クラス8名

参加費:①朝コース 7800円 ②土曜コース 4200円

申込:8月15日以降 8月31日まで (先着順)

使用テキスト「みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ」

★③「ボランティアのための日本語教育研修講座」

2026年10月2日(金)～12月11日(金)

午前10時～12時 毎週金曜 全11回

会場:中目黒住区センター(中目黒スクエア内)

対象:日本語教育支援ボランティアを希望する方。

目黒区在住・在勤・在学者優先・定員;30名

参加費:3000円(テキスト代及び資料作成費等)

内容「みんなの日本語初級Ⅰ」教え方のポイント講座

申込:9月1日～9月15日

※参加希望の方は、①②は7月半ば以降、③は8月半ば以降、

目黒ユネスコ協会 HP に掲載の申し込みフォームから各講座申

込期間内にお申し込みください。

■ 目黒ユネスコ協会主催

● 目黒ユネスコ協会の関連機関・団体との協力事業

▲ 目黒ユネスコ協会の関連機関・団体との共催事業

★ 目黒教育委員会からの受託事業



編集後記 11月に実施される「交流ひろばバスツアー」の下見に出かけた。東国佐原は、香取神宮の門前町として、また利根川水運によって商都として栄えた江戸時代の面影が小野川沿いに今も色濃く残っている。町の中心には、全国を測量し日本初の実測日本地図を完成させたことで知られる伊能忠敬の旧宅と記念館がある。日本三神宮の一つとして知られる香取神宮の創建は、神話・伝承上では紀元前650年頃で、天照大神の命で出雲へ赴き、国譲りに同行した武神が祭られている。深い森に包まれた境内は豊かな空気が漂い、東国屈指の聖地としての風格が感じ取れた。下見のコースとは別に、「水郷佐原あやめパーク」に立ち寄った。あやめ・紫陽花の花々が圧巻だった。 白岩 葉子

研修委員会より<ご案内>

★①文化講座「オペラ歌手から学ぶオペラ入門」

講師:花房英里子氏 メゾソプラノ歌手

9月20日(日)14:00～15:45(13:30開場)

場所:中目黒GTプラザホール

先着120人(無料)・申込:8月15日～9月10日

★②スペイン語初級講座

講師:トラルバ・ゴンザレス フランシスコ氏

常葉大学非常勤講師

10月2日(金)～令和9年1月22日(金)

9:15～11:15 全15回 (*除く11/6、1/1)

場所:緑が丘文化会館 201

費用:3,000円程度(教材費のみ)

申込:9月1日～9月20日、先着30名

※申込①②・目黒ユネスコ協会 HP 申込フォーム

・ FAX 03-5725-6160

■新入会員 どうぞよろしく (敬称略)

松宮 薫 落合 安代

◇会員募集中◇ 趣旨に賛同される方の入会を歓迎いたします。問合せ:事務局(宮城)迄。

7月以降の予定

●7/12(日)パーシモンほたる祭り

■7/13(月)～9/4(金)事務局夏休み

●8/6(木)目黒平和祈念のつどい

★9/8(火)～初めて習う日本語

▲9/8(火)～目黒ユネスコ日本語教室2026年秋期

★9/20(日)文化講座①オペラ入門

■事務局:月曜～金曜/13:00～16:00

■自主語学教室6講座 (仏・英・独・中・伊2)

